

2007年7月(通巻No. 101)

徳島県立農林水産総合技術支援センター 果樹研究所



赤色の矢印が示す位置が環状カット

研究情報

ハウススタチにおける環状カットが二次枝の発生及び着花に及ぼす効果

常緑栽培育種担当 研究員 安宅秀樹

1. はじめに

11月下旬～12月上旬に加温を開始するスタチの早期加温栽培において、発芽、着花不良が生産上の大きな問題となっている。この理由として、近年における秋季の温暖化、多雨及び新梢発生を抑制する生育調節剤の効果が不安定であることにより、夏季せん定後に発生した結果母枝から二次枝（秋枝）が発生しやすくなってい

ること、そのため花芽分化の進行が遅れていることが挙げられる。こうした状況のなか生産者は着花を促進させるため、秋季に土壤乾燥や環状カットを行っているが、効果が安定していない。そこで、環状カット及び新梢発生を抑制するエチクロゼート乳剤の効果的な処理時期や方法などを検討し、二次枝の発生及び加温後の着花に及ぼす効果について調査したので報告する。

2. 方法

25Lのポットに植えたスダチ（徳島1号、1年生）を供試した。露地圃場で管理していた樹を7月25日に夏季せん定を行い、夏枝を発生させ、表1のように処理区を設定した。環状カット処理

は接木部より5cm上部の主幹の樹皮を接ぎ木ナイフを使って全周に樹皮のみを切る程度に切り込みを入れた（表紙）。11月22日にハウス内に搬入して加温を開始し、発芽及び着花数を調査した。

表1 処理の概要

処理区	処理の概要
環状カットⅠ	夏枝自己摘芯日（8月18日）に環状カット
環状カットⅡ	二次枝萌芽日（8月26日）に環状カット
環状カット +エチクロゼート	二次枝萌芽日（8月26日）に環状カット+エチクロゼート 乳剤（農薬名：フィガロン乳剤）1,000倍2回（8月26日、 9月14日）散布
エチクロゼート	エチクロゼート乳剤1,000倍2回（8月26日、9月14日）散布
無処理	

3. 結果の概要

1) 二次枝の発生数は無処理区の樹当たり29本に比べ、エチクロゼート区で10本と少なかったが、エチクロゼートの二次枝の発生を抑制する効果は低かった。環状カットⅡ区は3本と若干の発生が認められた。環状カットⅠ区及び環状カット+エチクロゼート区では二次枝の発生は認められなかった（図1）。

1) 加温後の発芽節率は環状カットⅠ区、環状カットⅡ区及び環状カット+エチクロゼート区でそれぞれ90.0%、97.2%、99.2%に達したのに対して、エチクロゼート区では49.6%、無処理区では4.0%と発芽が少なかった（図2）。

3) 母枝当たりの着花数は環状カットⅠ区、

環状カットⅡ区及び環状カット+エチクロゼート区は10花以上であったが、エチクロゼート区では5.9花、無処理区では0.2花と少なかった（図3）。

以上より、早期加温ハウススダチでは夏枝が自己摘芯した日に環状カット処理を行うか、夏枝から二次枝が萌芽した日に環状カットとエチクロゼートの併用処理を行うと、二次枝の発生を抑制する効果は高く、加温後の発芽、着花が増加することが明かとなった。なお、環状カットは樹勢を弱めるので、樹勢の弱い樹には処理しないように注意する必要がある。

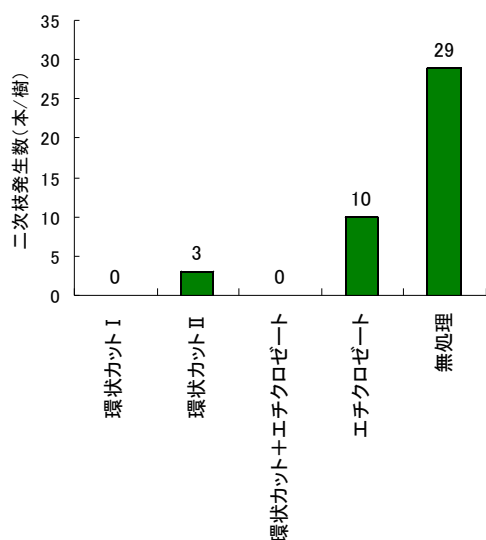


図1. 環状カットとエチクロゼート処理が二次枝発生に及ぼす影響

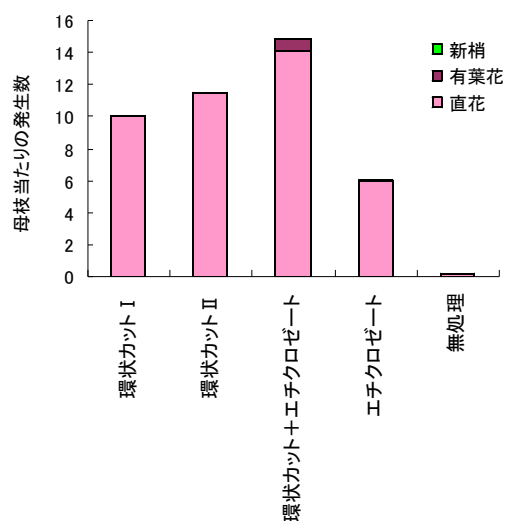


図2. 環状カットとエチクロゼート処理が加温後の夏枝の着花に及ぼす影響

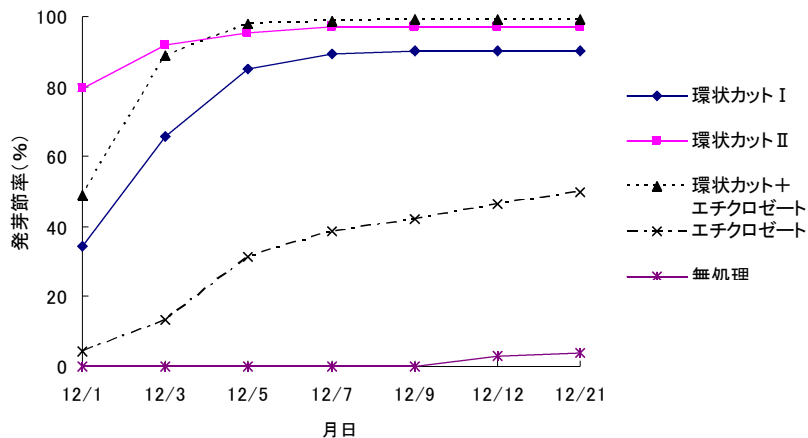


図2. 加温後の発芽率の推移

露地栽培における「徳島3X1号」の完全種子混入原因

常緑栽培育種担当 徳永忠士

1. はじめに

三倍体スダチの「徳島3X1号」は、高品質で早生の無核スダチとして期待されていますが、年度、栽培場所によりまれに完全種子を含みます。そこで、ハッサク等の中晩柑が多く混在し、コアオハナムグリ、ミツバチ等の訪花昆虫が毎年多数飛来する条件にある県北分場圃場において、露地栽培における「徳島3X1号」の完全種子の混入原因を調べた。

2. 方法

訪花昆虫防除区（アクタラ顆粒水和剤2,000倍を開花期の7日おきに3回防除）、ネット処理区

（亜主枝単位でミツバチが入らない程度のネットを被覆）および放任区（無処理）を設定し、収穫後の完全種子数を調査しました。

3. 結果の概要

放任区での無核果率は47%であったのに対して、訪花昆虫防除区での無核果率は66%、ネット処理区では96%であった。以上のことから、露地栽培における「徳島3X1号」の完全種子混入原因の主要因は訪花昆虫による他品種花粉の受粉であり、訪花昆虫の飛来を制限することにより無核果率が増加したものと推察された。

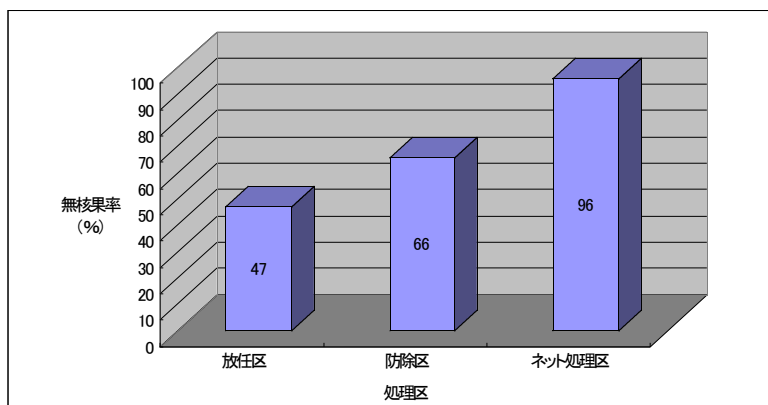


図1 開花期殺虫剤散布区およびネット被覆区における「徳島3X1号」の無核果率

お知らせ

☆果樹研究所新体制☆

	(勤務地)	主任研究員	新居美香 (勝浦)
所 長	山尾正実 (勝浦)	研究員	河野由希 (勝浦)
次 長	柴田好文 (勝浦)	研究員	兼田武典 (勝浦)
次 長	逢坂誠志 (上板)		
・総務担当		○人事異動○	
主査兼係長	今津好章 (勝浦)	3月31日付	
事務主任	島田准子 (勝浦)	退 職	
・常緑栽培育種担当		十河和男 所長	
科 長	山本浩史 (勝浦)	5月1日付	
科 長	徳永忠士 (勝浦)	転 入	
主任研究員	津村哲宏 (勝浦)	山尾正実 所長(とくしまブランド戦略課から)	
研究員	安宅秀樹 (勝浦)	逢坂誠志 次長(とくしまブランド戦略課から)	
技師 (技能)	岩浅照松 (勝浦)	山本浩史 科長 (南部総合県民局農林水産部	
技師 (技能)	久積幹夫 (勝浦)	<阿南>から)	
・落葉栽培担当		新居美香 主任研究員(徳島農林事務所から)	
専門研究員兼科長	小池 明 (上板)	兼田武典 研究員 (徳島農林事務所から)	
主任研究員	福田雅仁 (上板)	転 出	
研究員	岡島さつき (上板)	秋成 昇 (南部総合県民局農林水産部<阿南>へ)	
技師 (技能)	以西一史 (上板)	森 聡 (とくしまブランド戦略課へ)	
・生産環境担当		犬伏要輔 (とくしまブランド戦略課へ)	
科 長	中西友章 (勝浦)	奥野裕崇 (西部総合県民局農林水産部<美馬>へ)	
科 長	松家義克 (勝浦)		

果樹研究所ニュース No. 101

平成19年7月発行

編集発行 徳島県立農林水産総合技術支援センター 果樹研究所

〒771-4301 徳島県勝浦郡勝浦町沼江

TEL : (0885)42-2545 FAX : (0885)42-2574

印 刷 (協) 徳島印刷センター

(県北分場) 〒771-1320 徳島県板野郡上板町神宅

TEL : (088)694-2712 FAX : (088)694-2526

表紙の写真

スダチの環状カット

<http://www.green.pref.tokushima.jp/kaju/>